

促進員情報 11-1 4.1

ようやく我が家の前の神社の桜が満開に近い状態になりました。ほっとする気分です。まだ3分、5分咲きの桜もあります。入学式あたりがいい感じでしょうか。

さて、今月から小野田アドバイザーから錦戸アドバイザーに交代となります。小野田アドバイザーお疲れ様でした。有難うございました。また、これまで通り3人です。今年度も、どうぞ宜しくお願いいたします。

春スタート、環境変化もあり、何かと気遣う。新人の皆さんを迎える人事等の担当者はそれなりに大変ですね。私は、新人の皆さんに、「息抜きしながら、まずはスピードを上げずに慣れていきましょう。相談する“セルフケア”を忘れないように」と伝えております。

4月のスケジュール表を添付いたします。ご査収ください。(菅野)

目次

- 1 令和5年中における自殺の状況 令和6年3月29日
厚生労働省自殺対策推進室 警察庁生活安全局生活安全企画課
- 2 今月の現場から（保健師コラムリレー）
- 3 関連情報

- 1 令和5年中における自殺の状況 令和6年3月29日
厚生労働省自殺対策推進室 警察庁生活安全局生活安全企画課

<https://www.npa.go.jp/safetylife/seianki/jisatsu/R06/R5jisatsunojoukyou.pdf>

2023 (R5) 年 全体 21,837 人 / 男性：14,862 人 女性：6,875 人

図表1-1 (1) 自殺者数の前年比較 (1)

- 令和5年の自殺者数は21,837人であり、前年から44人減少した。
- 男性は116人増加、女性は160人減少したが、20歳代以下の若者においては、男性は減少し、女性は大きく増加した。
- 職業別にみると、有職者(282人増)は増加し、学生・生徒等(44人減)及び無職者(309人減)は減少した。
- 学生・生徒等のうち小中高生の自殺者数は前年と同水準の513人であり、男子生徒が34人減少した一方で、女子生徒は33人増加した。
- 原因・動機別にみると、最も増加したのは経済・生活問題(484件増)であり、最も減少したのは健康問題(371件減)であった。

年齢階級別の前年比較

		自殺者数	20歳未満	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80歳以上	不詳
令和5年	総数	21,837	810	2,521	2,587	3,625	4,194	2,798	2,901	2,370	31
	男	14,862	431	1,599	1,883	2,665	2,939	1,931	1,910	1,479	25
	女	6,975	379	922	704	960	1,255	867	991	891	6
令和4年	総数	21,881	798	2,483	2,545	3,665	4,093	2,765	2,994	2,490	48
	男	14,746	464	1,672	1,784	2,611	2,848	1,862	1,906	1,558	41
	女	7,135	334	811	761	1,054	1,245	903	1,088	932	7
差	総数	-44	12	38	42	-40	101	33	-93	-120	-17
	男	116	-33	-73	99	54	91	69	4	-79	-16
	女	-160	45	111	-57	-94	10	-36	-97	-41	-1

職業別の前年比較

		有職者						無職者					不詳
		有職者	学生・生徒等	うち				主婦・主夫	失業者	年金・雇用保険等受給者	その他の無職者		
				小中高生	小学生	中学生	高校生						
令和5年	総数	8,858	1,019	513	13	153	347	11,466	1,058	1,141	5,797	3,470	494
	男	7,063	572	259	5	73	181	6,827	18	901	3,624	2,284	400
	女	1,795	447	254	8	80	166	4,639	1,040	240	2,173	1,186	94
令和4年	総数	8,576	1,063	514	17	143	354	11,775	1,175	1,220	6,074	3,306	467
	男	6,811	663	293	12	73	208	6,915	9	988	3,740	2,178	357
	女	1,765	400	221	5	70	146	4,860	1,166	232	2,334	1,128	110
差	総数	282	-44	-1	-4	10	-7	-309	-117	-79	-277	164	27
	男	252	-91	-34	-7	0	-27	-88	9	-87	-116	106	43
	女	30	47	33	3	10	20	-221	-126	8	-161	58	-16

原因・動機別の前年比較

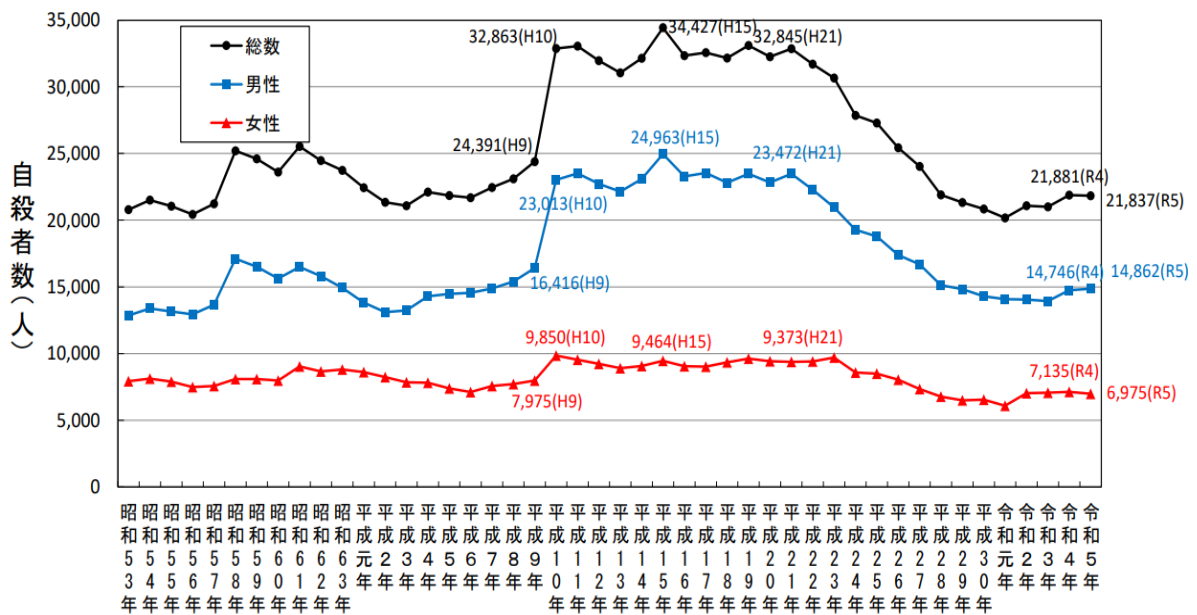
		家庭問題	健康問題	経済・生活問題	勤務問題	交際問題	学校問題	その他	不詳		
		令和5年	総数	4,708	12,403	5,181	2,875	877	524	1,776	2,388
			男	2,877	7,224	4,508	2,451	536	340	1,244	1,793
女	1,831		5,179	673	424	341	184	532	595		
令和4年	総数	4,775	12,774	4,697	2,968	828	579	1,734	2,717		
	男	2,885	7,301	4,127	2,538	485	392	1,192	2,043		
	女	1,890	5,473	570	430	343	187	542	674		
差	総数	-67	-371	484	-93	49	-55	42	-329		
	男	-8	-77	381	-87	51	-52	52	-250		
	女	-59	-294	103	-6	-2	-3	-10	-79		

資料：警察庁自殺統計原票データより厚生労働省作成

図表1-2 自殺者数の年次推移

○令和5年の自殺者数は21,837人で、前年と比べ44人(0.2%)減少。

○男女別にみると、男性は2年連続で増加したが、女性は4年ぶりに減少した。また、男性の自殺者数は、女性の約2.1倍となっている。



資料：警察庁自殺統計原票データより厚生労働省作成

2 今月の現場から（保健師コラムリレー）

最近の保健師活動と治療と仕事の両立支援

NEC 保健師・小室

<https://www.ryoritsushien.johas.go.jp/staff.html>

昨今、スーパーフレックス、時間単位の休暇、在宅勤務など勤務制度が充実してきています。ワークスタイルの変化にともない、例え、がんになっても休業せずに放射線治療を受けることができ、視覚障害を抱えていてもラッシュアワーの電車に乗り込むことなく自宅で始業できます。労働者本人の求めを端緒に始まる両立支援において、支援の求めはなくなりつつあるのでしょうか？今どきの産業保健において、両立支援の求めをキャッチするためにできることは何か、自身の経験と最近の取組みをつうじて考えてみたいと思います。

弊社社員は一言で言うとても真面目。病気があっても休まない、仕事に穴を空けたくないという方がまま見受けられます。印象深い2例を紹介します。出会った当時、支援希求のかけらも見受けられなかったものの、次第に求めが生じ支援に繋がった事例です。

Aさんは我々の部門内にある休養室を利用されますが、たいへん口数の少ない方でした。Aさんは実は、抗がん剤の治療中で、とにかく横になりたかったのです。しかしながら我々に信頼を寄せきれず口をつぐんでいました。Bさんとの出会いはメールでした。怒り心頭、注意喚起を切々と訴えていました。実は、Bさんは難病により視力が低下していました。回復への思いを強く持ち、ままならない現実を受け入れられる段階にはなく苛立ちを表出させていたのです。Aさん、Bさんの現在ですが、就労継続されており、我々のところに時折顔をみせ近況を語ってくれる関係が続いています。

当時から保健師ができたことといえば、共感的に、受容的な態度で応答する。けして特別なことではありませんでした。日頃から社員に強く関心を持ち、じっくり観察し、コミュニケーションを取る。こうした保健師の日常の中に支援の糸口が眠っているのかもしれない、よそ見していると見過ごす、そんな経験だったように思います。

※続きを上記アドレスにアクセスして読んでください。宜しく申し上げます。

産業現場における両立支援もいろいろあります。語っていただける関係作りができることは本当に嬉しい、安心の場になりますね。（菅野）

3 関連情報

◇ 厚生労働省▼△新着情報配信サービス から

(1) 2024年4月1日から教育訓練給付の支給申請がしやすくなります！

https://www.mhlw.go.jp/haishin/u/l?p=U7VYzKLed3_PoX3BY

(2) 【広報誌「厚生労働」のご紹介はこちらから】

ウェブでも記事の一部を公開しています。

https://www.mhlw.go.jp/houdou_kouhou/kouhou_shuppan/magazine/

『厚生労働』2024年4月号目次

▶特集：疑問も不安も解消！

[医療機関や薬局でマイナンバーカードを健康保険証として使おう](#)

▶特別 INTERVIEW：小林虎之介

「早くこの子たちを家に帰してあげたい」現場を見て学んだ思いを胸に

▶とびラボ企画：[対話から始める休み方・働き方～デンマークの暮らし方](#)

▶未来のつぼみ：[公務を担う責任とやりがいを感じながら今後の業務に邁進](#)

(3) 第11回自殺総合対策の推進に関する有識者会議（オンライン開催・ペーパーレス）資料

https://www.mhlw.go.jp/haishin/u/l?p=E_UeLEcpgs-233aBY

【配付資料】

[議事次第 \[PDF形式：63KB\]](#)

[資料1 自殺の動向について \[PDF形式：1.8MB\]](#)

[資料2-1 自殺総合対策大綱に基づく諸施策の実施状況について \[PDF形式：2.1MB\]](#)

[資料2-2 厚生労働省資料 \[PDF形式：3.7MB\]](#)

[資料2-3 こども家庭庁資料 \[PDF形式：3.1MB\]](#)

[資料2-4 文部科学省資料 \[PDF形式：1.6MB\]](#)

[資料2-5 内閣官房資料 \[PDF形式：958KB\]](#)

[資料2-6 内閣府資料 \[PDF形式：563KB\]](#)

[資料2-7 警察庁資料 \[PDF形式：306KB\]](#)

[資料2-8 総務省資料 \[PDF形式：562KB\]](#)

[資料2-9 法務省資料 \[PDF形式：978KB\]](#)

[資料3-1 こどもの自殺対策緊急強化プランについて \[PDF形式：3.3MB\]](#)

[資料3-2 文部科学省資料 \[PDF形式：1.9MB\]](#)

[資料4 自殺総合対策の推進に関する有識者会議の構成員名簿 \[PDF形式：126KB\]](#)

[参考1 自殺総合対策の推進に関する有識者会議の開催について \[PDF形式：73KB\]](#)

[参考2 自殺対策基本法の概要 \[PDF形式：233KB\]](#)

[参考3 自殺総合対策大綱（令和4年10月14日閣議決定） \[PDF形式：701KB\]](#)

(4) HPVワクチンの接種を逃した方へ～キャッチアップ接種のご案内～

https://www.mhlw.go.jp/haishin/u/l?p=kXeB_sy1IxYz2VcDY

平成9年度生まれ～平成19年度生まれ（誕生日が1997年4月2日～2008年4月1日）の女性の中に、通常のヒトパピローマウイルス（HPV）ワクチンの定期接種の対象年齢（小学校6年から高校1年相当）の間に接種を逃した方がいらっしゃいます。

まだ接種を受けていない方に、あらためて、HPVワクチンの接種の機会をご提供しています。

○ (※) HPV ワクチン全般については、「[ヒトパピローマウイルス感染症～子宮頸がん（子宮けいがん）と HPV ワクチン～](#)」をご覧ください。

○ 9 価ヒトパピローマウイルス (HPV) ワクチン (シルガード 9) について

<https://www.mhlw.go.jp/haishin/u/l?p=d5FnGCpTxfDVP7LIY>

○ ヒトパピローマウイルス感染症～子宮頸がん（子宮けいがん）と HPV ワクチン～

https://www.mhlw.go.jp/haishin/u/l?p=tVOI2uiRBzIX_XEnY

◇ J I L P T から

(1) 調査シリーズ No.241『治療と仕事の両立に関する実態調査（患者調査）』

治療と仕事の両立支援をめぐり、2016 年度に策定の「働き方改革実行計画」に基づき支援体制構築が進められてきました。2022 年度以降の方針検討に際し、がん患者・難病患者等の就労実態把握のため、患者 WEB 調査を実施しました。治療期間中の勤め先での配慮の適用状況は、「特段の配慮の適用なし」が 57.5%を占め、具体的な配慮は、「通院治療のための休暇取得」が 19.6%で最も高く、次いで、「入院・治療等に対応した長期の休職・休暇（15.0%）」、「仕事内容の柔軟な変更」（8.3%）、「残業・休日労働をなくす」（6.9%）、「所定内労働時間の短縮」（6.7%）などとわかりました。

<https://www.jil.go.jp/institute/research/2024/241.html?mm=1949>

(2) 調査シリーズ No.240『治療と仕事の両立に関する実態調査（企業調査）』

治療と仕事の両立支援について、2016 年度に策定された「働き方改革実行計画」に基づき、会社の意識改革と受け入れ体制整備、トライアングル型支援体制の構築が進められています。2022 年度以降の方針検討に際し、両立支援の現状把握と課題抽出のため、がん患者・難病患者等の就労実態について、企業調査を実施しました。私傷病等の疾患の治療と仕事の両立支援制度の課題（複数回答）について、「休職者の代替要員が難しい」が 65.9%、次いで「病状に応じた配慮や就業上の措置の判断」（39.6%）、「職場の上司・同僚等の負担への対応」（32.0%）、「就業継続可否または復職可否の判断」（30.4%）などでした。

<https://www.jil.go.jp/institute/research/2024/240.html?mm=1949>

(3) 調査シリーズ No.238『雇用調整助成金のコロナ特例の活用等に関する調査』

厚生労働省からの要請に基づく「新型コロナウイルス感染症の影響に伴う雇用調整助成金の特例措置の効果検証に関する研究」の一環として、コロナ禍における雇用調整助成金の特例措置の活用実態把握のため、事業所アンケート調査を実施しました。調査時点（2023 年 2 月末時点）で、受給事業所では、47.4%が業績が回復する見通しを持ち、従業員の過不足について「不足計」49.6%でした。雇用調整を目的として「休業」した事業所の割合は 25.7%。雇調金の受給や休業が長期化した事業所ほど、「従業員のモチベーション・働きがいの低下」「従業員の生産性の低下」を課題と感じる割合が高くなる傾向が見られました。

<https://www.jil.go.jp/institute/research/2024/238.html?mm=1949>

(4) テレワーカーの割合は減少、出社と組み合わせるハイブリットワークが拡大／国交省

国土交通省は26日、「2023年度テレワーク人口実態調査」結果を公表した。雇用型就業者のテレワーカー（これまでテレワークをしたことがある人）の割合は、24.8%（前年度比1.3ポイント減）と、減少傾向にあるが、コロナ禍以前よりは高い水準を維持。首都圏では、38.1%（同1.9ポイント減）と約4割の水準を維持している。雇用型テレワークの直近1年間のテレワーク実施頻度は、週5日以上17.7%、2日17.2%、1日16.9%と続き、週1～4日テレワークを実施する割合が増えている。コロナ禍を経て出社と組み合わせるハイブリットワークが拡大傾向にある、としている。

https://www.mlit.go.jp/report/press/toshi03_hh_000128.html

(5) 障害者雇用実態調査結果を公表／厚労省

厚生労働省は22日、2023年6月に実施した「障害者雇用実態調査」結果を公表した。従業員規模5人以上の事業所に雇用される障害者数は110万7,000人で、前回調査（2018年、85万1,000人）に比べ、25万6,000人増加し、「全体的に障害者雇用は着実に進展」としている。内訳は、身体障害者52万6,000人（同42万3,000人）、知的障害者27万5,000人（同18万9,000人）、精神障害者21万5,000人（同20万人）、発達障害者9万1,000人（同3万9,000人）。平均勤続年数は、身体障害者12年2月、知的障害者9年1月、精神障害者5年3月、発達障害者5年1月で、全ての障害種別で前回調査より増加した。調査は5年ごとに実施。雇用状況については、産業別、事業所規模別回収結果をもとに復元した推計値を利用して分析。

https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_39062.html

(6) 過労死等の防止のための対策に関する大綱（素案）を提示／厚労省

厚生労働省は19日、過労死等防止対策推進協議会に過労死等の防止のための対策に関する大綱（素案）を提示した。精神障害による労災請求・支給決定件数は増加傾向にあり、メンタルヘルス対策やハラスメント防止対策の重要性が増していることなどを踏まえ、2021年7月に閣議決定された現大綱を見直すもの。自動車運転者、医師や建設業を含め4月に全面適用となる時間外労働の上限規制の遵守を徹底すること、過労死等を繰り返し発生させた企業に「過労死等の防止に向けた改善計画」の策定など再発防止の指導を強化すること、フリーランスについて、過度な長時間就業とならないよう期日設定に関する注文者の配慮の取組みを進めることなどを見直しのポイントとして挙げている。また、過労死ゼロを目指し、労働時間、勤務間インターバル制度、年次有給休暇、メンタルヘルス対策についての数値目標も改定するとともに、公務員についても、目標の趣旨を踏まえた実効ある取組みの推進を求めている。

<https://www.mhlw.go.jp/content/11201000/001228535.pdf>

(7)「地域で活躍する中小企業の採用と定着 成功事例集」／厚生労働省

厚生労働省は28日、「地域で活躍する中小企業の採用と定着 成功事例集」を公表した。全国的に人手不足感が高まる中、特に地方の中小企業では人材確保が大きな課題となっていることを踏まえ、採用や定着に成功している20社について、事業戦略の転換や業務内容の見直し、働く環境の整備や採用活動の工夫など、さまざまな角度から掘り下げている。

https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_39069.html

◇ 保健指導リソースガイド | メールマガジン から

(1) ストレス対処法を学ぶことが大切

職場での「マインドフルネス」がストレスや燃え尽き症候群から守る

<https://i.r.cbz.jp/cc/pl/kcax9386/ancl25qyc9gz/cntht64v/>

(2) 日本人がどれだけ運動・身体活動をしているかを調査 達成率は49.5%

若年・中年・女性の達成率が低い

<https://i.r.cbz.jp/cc/pl/kcax9386/gzx2sy25k7u9/cntht64v/>

(3) 【乳がん検診】40歳になったら毎年受けるとリスクは最小限に

乳がん検診は進歩している

<https://i.r.cbz.jp/cc/pl/kcax9386/b6mpdqftaxb6/cntht64v/>

◇ ◆【From_M】 から 情報提供有難うございます

◆ 産業医学振興財団

○◀書籍▶How to 産業保健 No.2

嘱託産業医のための 治療と仕事の両立支援の進め方

令和6年3月25日 発売!

定 価：2,200円(消費税込) 送 料：350円

内 容：悩んだら読む! 悩む前に読む!! 産業医必携のハンドブック

<https://www.zsisz.or.jp/shop/book/2024/03/post-5.html>

○◀書籍▶医師による面接指導マニュアル1 高ストレス者編 令和6年3月29日発売!

<https://www.zsisz.or.jp/shop/book/2024/03/how-to-no1.html>

堤 明純(北里大学医学部 教授) 編著 2024年(令和6年)3月28日 発行

B5判/96頁/本文2色刷 定 価：2,200円(消費税込) 送 料：350円

◆2024年度産業保健看護専門家制度登録者認定試験要領を公開いたします

https://www.sanei.or.jp/hokenkango/files/information/20240325_2024test_tourokusha.pdf

2024年度から登録者認定試験の申請方法が専用のWeb申込みフォームに変更になり、従来の郵送による受験申請は廃止となります。2024年度産業保健看護専門家制度登録者認定試験要領をお読みください。

◆教員のストレスチェックに苦心 精神疾患の休職、過去最多 管理職の意識変革がカギ
https://news.infoseek.co.jp/article/sankein_life_education_UDVCPMICPBMRHNOPNRDZACKYV4/

精神疾患で休職する教員が過去最多となる中、文部科学省は25日、調査研究を委託した5つの自治体が取り組むメンタルヘルス対策の成果報告会を開いた。アプリを使ったストレスチェックなど早期発見の試みが広がるが、十分な効果は上がっていないのが実情。教員不足が深刻化しており、実効力の高いモデルケースづくりが急がれる。

◆【Japan Data】仕事辞めたい理由は給料と人間関係：

思いとどまるのは「経済的不安」があるから

<https://news.yahoo.co.jp/articles/de4d1fcae80d12115d0aaf8ac2d117c5c5a9597f>

「もう、こんな会社辞めてやる！」と一度も思ったことがない人なんていないよね？でも、実際に退職に向けた行動に移す人は意外に少ない。二の足を踏むのはやっぱり経済的不安。

◆令和5年度 地方公務員のメンタルヘルス対策の推進に関する研究会報告書

https://www.soumu.go.jp/main_sosiki/jichi_gyousei/koumuin_seido/anzen_koumu_mhr5.html

https://www.soumu.go.jp/main_content/000935935.pdf

地方公共団体におけるメンタルヘルス対策の推進について（通知）（令和6年3月22日）

https://www.soumu.go.jp/main_content/000935936.pdf

◆2024 フォーラム開催のお知らせ NPO 法人 健康開発科学研究会

「健康診断の意義と展望～社会インフラとしての健康診断～」

https://www.e-bio.co.jp/health-development/pdf/20240531_forum.pdf

https://www.e-bio.co.jp/health-development/form/npo_event_2024forum.html

日時：2024年5月31日（金）13：00～17：00

会場とWebのハイブリッド開催（Zoomミーティング）

錦戸 典子 （両立支援担当）

noriko-nishikido@honbu.johas.go.jp

中山 篤 （メンタルヘルス担当）

atsui78natsu@gmail.com

菅野 由喜子 （メンタルヘルス担当）

yukikan28@gmail.com